

学会ニュース No.147

2024年4月30日 全日本博物館学会事務局
〒150-8440 東京都渋谷区東4-10-28
國學院大學博物館学研究室内
Tel: 03-5466-0268 E-mail: jimmu@museology.jp

*** 目次 ***

| | |
|--|-------------------------------------|
| 【会告】2024年度第51回総会・第50回研究大会について……………1 | 問題」開催報告……………3 内規等の一部改正について……………6 |
| 【会告】2024年度・2025年度・2026年度全日本博物館学会会長および委員の選挙結果報告……………2 | 委員会議事抄録……………6 会員情報……………7 |
| 2023年度 第2回研究会「生物標本の収蔵と活用の | |

【会告】2024年度第51回総会・第50回研究大会について

全日本博物館学会
会長 布谷 知夫

全日本博物館学会 2024年度 第51回総会・第50回研究大会を、下記の通り2024年6月29日(土)・30日(日)に北海道開拓の村において開催いたします。会員諸氏には奮って大会にご参加くださいますよう、お願い申し上げます。

なお本大会の最新情報については、学会ウェブサイトにて掲載しておりますので、ご覧いただきますようお願い申し上げます。

記

会 期：2024年6月29日(土)・30日(日)
会 場：北海道開拓の村 ビジターセンター (〒004-0006 北海道札幌市厚別区厚別町小野幌50-1)
主 催：全日本博物館学会
共 催：北海道開拓の村
参加費：(対 面) 一般会員 1,000円・学生会員 500円・非会員 3,000円
(オンデマンド視聴) 一般会員 3,000円・学生会員 1,000円・非会員 5,000円
※参加方法など詳細は、学会ウェブサイトをご覧ください。
会場へのアクセス：JR「新札幌」駅下車・地下鉄東西線「新さっぽろ」駅下車
新札幌バスターミナル北レーン10番乗場よりジェイ・アール北海道バス
「開拓の村」行(約20分) 終点下車

連絡先：全日本博物館学会事務局
〒150-8440 東京都渋谷区東4-10-28 國學院大學博物館学研究室内
E-mail: jimmu@museology.jp

【会告】2024年度・2025年度・2026年度 全日本博物館学会会長および委員の選挙結果報告

全日本博物館学会選挙管理委員会

委員長 杉山 正司

委員 篠木 由喜

深澤 太郎

船津 涼子

安田 幸世

標記の件につき、「全日本博物館学会会長・委員の選挙および監事の選任に関する細則」第16条に基づき、ご報告申し上げます。

さて、「全日本博物館学会規約」第7条および第9条に基づく2024年度・2025年度・2026年度全日本博物館学会会長および委員の選挙を、上記細則第9条に則り実施いたしました。会長1名・委員45名の被選挙人（候補者）のうち、投票数189通（うち無効2通、委員選挙白票3通）を開票の結果、会長及び委員の当選者名、ならびに委員の次点者名と得票数は、下記の通りとなりました。

当選者におかれましては、2024年6月29日開催予定の2024年度第51回総会における全日本博物館学会選挙管理委員会による報告を以て、ご就任となります。

全日本博物館学会 会長

| | | |
|---|-------|-----|
| 1 | 半田 昌之 | 173 |
|---|-------|-----|

全日本博物館学会 委員 *上位15名が当選

| | | | | | |
|---|-------|-----|----|--------|----|
| 1 | 栗原 祐司 | 108 | 9 | 芦谷美奈子 | 58 |
| 2 | 内川 隆志 | 103 | 9 | 粕谷 崇 | 58 |
| 3 | 山本 哲也 | 100 | 11 | 高田 浩二 | 56 |
| 4 | 五月女賢司 | 95 | 12 | 下湯 直樹 | 55 |
| 5 | 金山 喜昭 | 79 | 13 | 菅野 和郎 | 54 |
| 6 | 並木美砂子 | 77 | 13 | 佐藤 優香 | 54 |
| 7 | 島 絵里子 | 74 | 15 | 高橋 信裕 | 51 |
| 8 | 持田 誠 | 65 | 16 | ※伊豆原月絵 | 51 |

※…次点（「全日本博物館学会会長・委員の選挙および監事の選任に関する細則」第11条の3の規定に基づき、候補者の有効得票数が同数であった場合の順位は、会員歴の長い候補者を上位とする。）

2023年度 第2回研究会
「生物標本の収蔵と活用の問題」 開催報告

令和6年2月20日、高知市のオーテピア高知図書館において、「生物標本の収蔵と活用の問題」をテーマとして、主催全日本博物館学会と「こうちミュージアムネットワーク」、高知みらい科学館の共催、高知県教育委員会と高知市教育委員会等による後援で講演会とシンポジウムが開催され、翌2月21日には高知県立牧野植物園のご協力を得て現地見学会が開催された。全国各地の生物資料収蔵場所の不足が顕著となっており、廃校等が保管場所にあてられる事例も散見される。自然系博物館の現状と課題を参加者と共有し、今後の自然系資料の保管や活用のあり方について議論し、展望を開くために本研究会が企画された。

収蔵庫を新設した栃木県立博物館の事例について元栃木県立博物館の林光武学芸部長より基調講演をいただき、シンポジウムでは、こうちミュージアムネットワークの谷地森秀二氏・牧野植物園の藤川和美氏・徳島県立博物館の長谷川賢二氏からそれぞれ報告をいただいた後、参加者からの質疑応答を含め議論がなされた。ここでは、未来に遺し、標本研究が滞りなく続けられるような市民協働のありかたや、施設整備等の必要性など、市民へのアピールのための普及活動の必要性など、議論を深めることができた。講演会とシンポジウムに高校生や大学生も含め72名、翌日の高知県立牧野植物園見学会には36名の参加があった。なお、この研究会はNHK(高知)及び地元紙(高知新聞)に取り上げられ、ニュースや紙面で広く報道された。

1. 基調講演「栃木県立博物館の新収蔵庫棟建設に至る歩み」

栃木県博の収蔵庫新設については、広く知られているところだが、その背景やどのような努力がなされてきたのかについての詳細な状況を林氏からうかがうことができた。2013年に、栃木県の県議会(生活保健福祉委員会)で収蔵庫の満載状況が取り上げられ、報告書「文化拠点施設における新たな事業展開：文化遺産の適切かつ有効な保管と活用」という資料の収集・保管のシステム化と適切な収蔵環境の確保について提言を受けたことが新施設への歩みの発端となったとのことであった。翌2014年度より県民文化課が「博物館の収蔵庫の現況調査と資料収集や収蔵の方法に関する評価と改善策の検討」を始



写真1 基調講演で栃木県立博物館の収蔵庫建設を語る林光武氏

め、2015年度には県政策経営会議の検討課題として「県立博物館における収蔵資料の保管と活用のあり方」が取り上げられ、独自のワーキンググループによる協議・検討が行われ、その結論として、収集方針の見直しと収蔵資料のマネジメントの導入を前提として、今後2047年まで見通した収蔵庫を博物館に隣接して建設することが提案された。ここに至るまでには、館職員のまとまり、館職員と本庁主管課職員の良好な意思疎通、共同体意識がたいへん重要で、「活用できてこそその収蔵資料」であること、「現在の、未来の県民のために、博物館、博物館資料が、いかに役に立つか」という視点を堅持し続けたことが、収蔵庫新設につながったことが紹介された。

2. シンポジウム「これからの生物標本の保管・管理・活用を考える」

① 高知県における自然史標本の現状

こうちミュージアムネットワークの谷地森秀二氏より、令和3年度に行った高知県内における自然史科学標本の種類・量・保管管理の状況などについての調査結果が報告された。調査によって、約235,000点の標本が市民の手で保存されているが、保存継続の見通しが困難であること、所有者の多くが、保存してきた標本類が活用されることを望んでいるなどの意見が多いことが分かった。



写真2 高知県における自然史標本の現状を語る谷地森秀二氏



写真3 高知県立牧野植物園における生物標本の現状を語る藤川和美氏



写真5 意見交換で進行役を務める高知みらい科学館の岡田直樹氏



写真4 徳島県立博物館における資料収集・保存の現状を語る長谷川賢二氏



写真6 高知県立牧野植物園見学会の様子

② 高知県立牧野植物園における生物標本の現状と課題

牧野植物園の藤川和美研究員より、植物園の設立の背景、牧野文庫の紹介を含み、生物標本について調査や標本作成、データ管理・ファイリングなど、各スタッフの業務分担についての詳細なお話をいただいた。1958年に高知市五台山に開園した牧野植物園は、現在8ヘクタールを超える大きな植物園で、高知県の野生植物の調査・収集・保全のみならず、鑑賞と活用研究の両面がすすめられる新しい形の植物園の姿の紹介など、翌日午前中開催の牧野植物園の見学会に先立つ情報提供をいただいた。

③ 徳島県立博物館における資料収集・保存の現状

徳島県立博物館館長長谷川賢二氏より、博物館資料は徳島県民の共有財産であり、それらを未来に伝える責務があるのは確かであるが、展示や普及教育活動などで活用しながら、収集保存の意義を理解してもらおうという回路を重視しているとのことであった。開館当初（1990年）の館蔵資料数は約75,000点であったが、現在は約577,000点で、収蔵庫のスペースの問題だけでなく、空調システムの老朽化、虫菌害や酸・アルカリなどへの対策といった、資料の劣化要因への対応にも課題があること、館全体の老朽化の問題も含め、施設・設備の再構

築に向けた取組を粘り強く続けていかなければならないとのことであった。

④ 意見交換会

意見交換会では、現在の博物館におけるさまざまな教育的な活動が、よいことをしているにも関わらず、なかなか広報がされていないことから、市民から支援されるよう、積極的な広報をしていくことの提案、高知では、すでに、市民が自主的に標本作成と保管をしてきたものの、分散型がよいのか集中的な保管がよいのかなど、議論が必要であるとの意見が出された。

3. 高知県立牧野植物園見学会

牧野博士の蔵書や遺品など約6万点を収蔵する牧野文庫（研究調査のみ利用可）を含む牧野富太郎記念館の見学、新しくできた植物研究交流センターなどを含め、2グループに分かれてじっくりと見学をさせていただいた。牧野博士が手掛けた実際の腊葉標本や植物スケッチも間近で見学させていただきながら、標本庫の状況や管理の課題についても係のかたから直にお話をうかがえた。また、生物多様性に支えられている私たち人類の生命についても、「薬草」という観点から植物（菌類含め）との深い関係性を考えさせられた。植物多様性の解明

や、令和5年5月に設立された「植物研究交流センター」では薬草の活用研究がすすめられていること、ガラス張りの研究室で実際の研究を垣間見ることができるといった工夫がされていた。それぞれの施設で館のスタッフの方々に暖かく迎えられ、的確な説明をいただき、深く感謝申し上げます。

4. 参加者からの声

①講演とシンポジウム参加者より

- ・私自身が昆虫標本作製し調査などにも参加させて頂いている身として、この問題は他人ごとではないので高校生の間にこのような研究会に参加することができたことは大変貴重な体験になりました。
- ・「取蔵庫がいる」という問題はそのまま「博物館が必要か」という問題につながる事が印象に残りました。博物館の存在意義について今一度振り返る必要性を強く感じました。
- ・人事を尽くして天命を待つという言葉の通り、理論武装と粘り強い主張を続けた上で偶然を掴み取るが必要で、大変厳しい道のりであることを再確認した。有意義な講演であった。
- ・イベントなどでお客様に楽しんでもらうことも大切だけれど、学術的意義も同時に知っていただくというのはできていそうでできていないことだと思いました。
- ・ゴミと同様の扱いあるいはそれ以下になってしまっている取蔵庫状況が全国の博物館で見受けられることに歯がゆさを感じる。トップ次第というのはいつまで続くのだろうか。
- ・市民層からのボトムアップ的な「地域博物館再建」や地域支援型クラファン（Cloud Funding）あるいは民間の力との官民・官業協働での博物館支援活動に正面からお願いすることもこれからの博物館の姿なのではないだろうか。
- ・是非高知県にも県立の自然史博物館を設立していただきたいと改めて感じました。
- ・取蔵庫という箱だけあっても未来に残せないということを感じた。取蔵庫内の設備もかなり嚴重に維持管理を日々行っていることを初めて知り、次世代の研究者が生まれ、その資料が活用、研究され誰かの必要な情報となるなど、財産だと感じる事ができました。
- ・高知県内には、本当に研究者がたくさんいらっしゃいます。個人の趣味で行っている人も含めて・・・すべてを把握し取蔵するのは難しいと思いますが、それらをうまく活用「魅せる」というのを今後考えていきたいと思っています。

②牧野植物園見学参加者より

- ・牧野博士の「徹底した植物愛」を「蔵書のジャンル的なさ」に教わりました。
- ・なにがとも 他人には負けないぞという以上の「徹底した探求心」が偉業の源なのかもしれないな～と思います。そこまで徹底できる心が 大切なのだなと。
- ・スタッフの皆さんもとても職場を大切にされている所作、とても印象よかったです。今後とも多くの来館者に牧野先生の業績、そして遺された標本と蔵書の文化的・社会的・世界的貴重な資料であるとの位置づけを知っていただける大切な活動を丁寧につけて頂きたいと思いました。
- ・植物標本は薄いのであれだけの規模でも50万点ほどを収蔵できることには、なるほどと思いました。維管束植物以外の自然史標本の博物館及び取蔵庫を建設する際のよい参考になるのではないかと思います。滅多に見ることのできない博物館の取蔵庫を見学する機会を頂けて、大変ありがたかったです。
- ・全体的にコンセプトが統一されており、狙っているであろう客層と実際に多い客層が一致していると感じられた。書庫は非常に清潔に保たれ、整理も行き届いており、あれだけのバリエーションがありながら文献のある場所も正確に把握されていた。取蔵庫も同様であり、収蔵される資料の傾向に合わせて整理と検索性に優れたバックヤードが構築されている様子を見ることができ、今後の取蔵庫整備において大いに参考になった。

③主催者への意見

- ・大変楽しく、勉強になる研究会でした。今回は平日で小中高校生はほとんど参加ができなかったと思うので、ぜひ次回は休日にも企画していただきたい。

5. 主催者として

これまで市民の活動によって築かれ守られてきた多くの生物標本は、自然史研究の基礎資料となり、数多くの市井の研究者がうまれているが、自然史標本には、それぞれの保管技術と施設整備が必要で、高知にもぜひ取蔵庫を備えた自然史博物館が望まれる状況であることが、改めてクローズアップされた。全日本博物館学会としても、これを機に、重要な標本類の保存と活用について、バックアップをしていきたいと考えるものである。

(並木美砂子 帝京科学大学)

内規等の一部改正について

2024年2月27日開催の2023年度第4回委員会において、下記の通り「全日本博物館学会内規」の一部改正がなされましたので報告申し上げます。

全日本博物館学会内規

新（改正後）

三. 会費滞納者

(一) 指定の期日までに会費を納入しなかった会員には、規約第六条の権利を停止するとともに、納入の督促を行う。会費の納入があり次第、権利の停止は解除する。

四. 機関誌、その他の刊行物

(二) 連絡誌は『学会ニュース』と称し、各年度四回程刊行する。総会・研究会等の学会活動の連絡・報告のほか、会員による投稿原稿等により構成する。投稿現行の採否は総務委員会がおこなう。

旧（改正前）

三. 会費滞納者

(一) 会費を一年にわたって滞納した会員には、規約第六条の権利を停止するとともに、納入の督促を行う。会費の納入があり次第、権利の停止は解除する。

四. 機関誌、その他の刊行物

(二) 連絡誌は『学会ニュース』と称し、各年度四回程刊行する。総会・研究会等の学会活動の連絡・報告のほか、会員による投稿原稿等により構成する。投稿原稿の採否は総務委員会がおこなう。

委員会議事抄録

【2023年度 第4回委員会】

2023年2月27日：オンライン（Zoom）

出席者：伊豆原、井上、内川、金山、可児、五月女、
佐々木、島、高田、並木、浜田、半田、山本

委任欠席：栗原、高橋、布谷

議事（議長：内川会長代行）

(1) 2年以上会費滞納者の退会について

2年以上にわたる会費滞納につき、指定の期日までに未納の会費を納入せず、及び進退の意思表示を行わなかった会員は、全日本博物館学会内規第3条の2の規定により退会させることとした。

(2) 全日本博物館学会内規の一部改正について

全日本博物館学会内規第3条の1及び第4条の2の一部改正について、原案の通り承認された。

(3) 出版社からの依頼について

出版社より全日本博物館学会宛に出版企画の監修を含む執筆依頼があったため、依頼を受諾することとした。

(4) 第51回総会・第50回研究大会について

第51回総会・第50回研究大会について、研究発表の実施方法及び諸経費の確認、研究発表の募集について確認した。

(5) その他

正会員の入退会、入会手続き方法等の変更、第2回研究会の開催成果について報告があった。

【2023年度 第5回委員会】

2023年5月9日：オンライン（Zoom）

出席者：伊豆原、内川、栗原、島、並木、浜田、山本

委任欠席：井上、可児、金山、五月女、高田、高橋、布谷

議事（議長：内川会長代行）

(1) 2年以上会費滞納者の退会について

2年以上にわたる会費滞納につき、指定の期日までに未納の会費を納入せず、及び進退の意思表示を行わなかった会員は、全日本博物館学会内規第3条の2の規定により退会させることとした。

(2) 全日本博物館学会会長・委員の選挙および監事の選任に関する細則の一部改正に関する選挙管理委員会勧告について

全日本博物館学会選挙管理委員会より、全日本博物館学会会長・委員の選挙および監事の選任に関する細則第19条に基づく勧告があり、次期選挙に関わる事項のため2024年度次期委員会に引き継ぐこととした。

(3) 『博物館学雑誌』第49巻第2号等の遅延について

『博物館学雑誌』第49巻第2号及び『学会ニュース』第147号の刊行が遅れているため、印刷費執行にあたっては2024年度予算に繰越しすることとした。

(4) 『博物館学雑誌』のオンライン学術情報データベースへの掲載依頼について

『博物館学雑誌』のオンライン学術情報データベースへの掲載依頼があったが、検討に時間を要するため2024年度次期委員会に引き継ぐこととした。

(5) 出版社からの依頼について

出版社から依頼のあった出版企画について当方より企画案の変更があったが、検討に時間を要するため2024年度次期委員会に引き継ぐこととした。

(6) 『全日本博物館学会創立50周年記念誌』について

山本常任委員より『全日本博物館学会創立50周年記念誌』の構成案について説明があり、編集委員会において検討の上決定、編集を実施していくことを確認した。

(7) 第51回総会・第50回研究大会の開催について

第51回総会・第50回研究大会について、研究発表申込について審議があり、その他、当日の、参加費の徴収等の確認事項について確認した。

(8) その他

正会員の退会、正会員及び賛助会員の入会、2024年度・2025年度・2026年度全日本博物館学会会長および委員の選挙結果について報告があった。

会員情報

入会者（正会員21名・2024年5月時点）

| | | |
|------|-------|-------|
| 阿部幸音 | 今村信隆 | 内田 登 |
| 江口佳穂 | 大久保尚紀 | 岡村奉一郎 |
| 兼古英和 | 河野英治 | 佐川果蓮 |
| 朱 麗梅 | 高良未来 | 田村由美子 |
| 中谷大輔 | 錦織一臣 | 長谷川暢子 |
| 濱崎好治 | 藤崎知輝 | 宮元正博 |
| 毛利禎晴 | 宗像晋路 | 山川隆良 |

入会者（賛助会員1団体・2024年5月時点）

Virtualion 株式会社

退会者（正会員17名・2024年5月現在）

| | | |
|------|-------|------|
| 家田健吾 | 圓戸恭子 | 河田 健 |
| 草野敦哉 | 佐藤由紀男 | 鈴木康二 |
| 関口大志 | 関健次郎 | 田中真樹 |
| 戸倉博之 | 名児耶明 | 新田秀樹 |
| 久井貴世 | 前川さおり | 安村 薫 |
| 米島賢二 | 山崎博史 | |

会員数（2024年5月現在）

| | |
|---------------|------|
| 一般会員（学生会員を含む） | 470名 |
| 賛助会員 | 11団体 |

住所等が変更の場合は連絡を！

転居・異動の多い季節を迎えます。学会からの刊行物等を確実に受け取るためにも、ご登録事項が変更になった場合は必ず事務局のメールアドレスまでお知らせください。その際は、以下の事項をご記入ください。

- ・氏名（ふりがな）
 - ・送付先（ご自宅又はご所属先）
 - ・新住所
 - ・メールアドレス
 - ・ご所属先の異動・変更の場合は、新所属
 - ・その他、変更事項
- ※上記の個人情報は、本学会の運営、各会員への連絡等の目的に使用いたします。

連絡先：全日本博物館学会事務局

E-mail：jimu@museology.jp

【通告】年会費の納入について

2024年度会費をご納入いただいていない方は、6月13日（木）までに①・②いずれかの口座まで6,000円をご入金ください。本学会の円滑な運営に、何卒ご協力を賜りますよう、重ねてお願い申し上げます。

①郵便振替 00170-4-26144（加入者名：全日本博物館学会）

②三菱UFJ銀行 池袋支店 普通預金：1304291（口座名義：全日本博物館学会）

【通告】学会からの通達方法について

本学会では、通達事項は基本的に郵便物で発送しておりましたが、昨今の物価上昇に伴う経費削減と将来的なデジタルトランスフォーメーションの導入を見据えた事務局の負担緩和のため、刊行物等一部を除いて段階的に電子メールによる連絡に切り替えることといたします。

つきましては、学会にメールアドレスを登録されていない方、転職・異動等に伴いメールアドレスをご変更された会員におかれましては、事務局のメールアドレス（jimu@museology.jp）までご登録のメールアドレスをご連絡いただけますようお願い申し上げます。